



*Clear Blue*  
～未来への創造～

大槌  
町勢要覧2008  
IWATE OTSUCHI

誠実・信頼・透明性を基本理念とした明るい町政運営

Photo 吉里吉里弁天海岸より望む鯨山

*Clear Blue*  
～未来への創造～

IWATE OTSUCHI  
大槌町町勢要覧 2008

[発行日] 平成20年3月 [発行・編集] 大槌町  
〒028-1192 岩手県上閉伊郡大槌町新町 1-1 TEL0193-42-2111 FAX0193-42-3855  
URL <http://www.town.otsuchi.iwate.jp> E-mail [ochan@town.otsuchi.iwate.jp](mailto:ochan@town.otsuchi.iwate.jp)

[印刷] 株式会社 東海印刷所



町長 加藤 宏暉

大槌町の沿革は、明治22年の市町村制実施に伴い大槌村、小槌村、吉里吉里村の3カ村が合併、更に昭和30年の金沢村との合併により、現在に至っております。

この間、町の文化、産業、経済の発展に時を刻まれた先人の強い情熱と英知により、多くの困難を克服し、たゆまぬ努力によって、その礎が築かれて参りました。

本町は、風光明媚な陸中海岸国立公園のほぼ中央に位置し、豊かな三陸漁場を有しております。この恵まれた自然環境のもと、町民憲章の理念に基づいた地域づくりを推進するため、現在、平成18年度から10年間のまちづくりの指針となる「第8次大槌町町勢発展計画」に沿った行政運営を展開しております。

この要覧は、本町でも特化したポテンシャルを交えながら、本町の魅力を広く知っていただくために刊行するものであり、これにより町勢のあらましをご理解いただき、今後のまちづくりに更なるご理解とご協力を賜れば幸いです。

# 静かなる黎明

東の空に豊かな光の帯が広がり

やがて岬の背を越え海面に降り注ぐ。

いつの日も変わることなく演じられてきた自然の営みに

従順に身を任せてきた。

幾条もの細い川は人知れぬ森の中を流れ

さわめきながら寄り集まり

やがて二条の流れとなつて大海へと注ぎ込む。

人々は深く澄んだ海懐に抱かれながら

先人たちの熱い思いと英知の賢を幾重にもまとい

悠然と未来へ時を刻み続ける。

## CONTENTS

- 町長あいさつ 静かなる黎明..... P 1
- 特集1..... P 3
  - 小さいのちを守るために
  - ～川の妖精が教えてくれたこと
  - 伝える側と受け継ぐ側のきずな
  - ～次代に伝えるということ
  - 大槌発の「日本初」
  - ～理想をかたちにするということ
- 特集2..... P 9
  - 大槌を拠点に活躍する企業&研究所
- 第8次大槌町町勢発展計画前期基本計画..... P 11
  - 産業/地域/行政/健康/福祉/教育/生涯学習/防災/環境
- 行政・議会..... P 25
- おおつちの歴史..... P 27
- イベント～四季の躍動..... P 31
- 新大槌八景・物産～印象の創造..... P 33
- 大槌タウンマップ&アクセス..... P 35
- 姉妹都市..... P 37



源水川「淡水型イトヨ」指定保護区域



イトヨを守る会の活動の様子



大槌高校自然科学同好会の研究活動



大槌高校研究室での飼育活動

体長約五センチの小さなさかな。  
全国的にも希少とされる「淡水型イトヨ」が  
この町の川を泳いでいる。  
この小さな生命と  
彼らが生きていける環境を守ること、  
それは自分たちを守ることに  
つながることを知った。

小さいのちを守るために **Life**

# 川の妖精が 教えてくれたこと



**町指定文化財に  
(天然記念物としては初)指定**

その妖精は、ただ静かに待っていたのかも  
れません。大槌の環境の素晴らしさに人々が  
気づいてくれることを。  
言うまでもなく。その妖精の名は「イトヨ」。  
大槌川水系の源水地区に生息するイトヨ  
は、全国でも五カ所しか確認されず、その生  
体数も減少している「淡水型」。二十度以下の  
きれいな水を好むとされ、環境省のレッドデー  
タブックで絶滅危惧種に指定されるほどの希少  
種です。今や町指定文化財(天然記念物)にも  
指定された、美しい大槌の環境保全を象徴す  
る魚です。

この「淡水型イトヨ」が認知されはじめたお  
よそ十年前から、大槌町では「循環・共生型社  
会の構築」を進めています。  
これは、単にイトヨを守ることが目的ではあ  
りません。イトヨの生息環境を保全すること  
とは、森・川・海の「水の循環」の維持、さら  
には産業の発展、何よりこのまちに暮らす人々  
の幸福の実現に他ならないのです。

**環境と共生する  
まちづくりに向けて**

では、環境と共生するまちづくりのため、大

槌では具体的にどのような活動が行われてい  
るのでしょうか。  
イトヨ生息地の地元・源水地区の住民を中  
心とする「イトヨを守る会」では、川のゴミ拾  
いなどの環境清掃を月に三〜四回実施。  
「自分たちのまちは自分たちで守る他ない。  
一人、そしてまた一人とこの川の水質維持のこ  
とを思ってくれば、『まち』のコミュニティづく  
りへもつながるはずだ」  
という意識が会の活動を支えています。  
こうした草の根的な活動の一方で、大槌町  
としても生活排水が源水川へ直接流れ込まない  
ように整備し、生育環境の改善に努めました。  
「大槌の環境のために、高校生として何かで  
きなにか」そんな思いから大槌高校でも、三年  
前に「自然科学同好会」が結成されました。手  
づくりの循環式水槽装置が並ぶ研究室では、  
生徒が実際に採取してきたイトヨを飼育。毎  
日の観察をはじめ、繁殖の実験にも成功する  
など、イトヨの生態研究の成果をまちの環境  
保全に活かそうと取り組んでいます。  
また、イトヨの水槽が設けられた町内の小  
中学校を訪問し、水槽の清掃や生育状況を  
チェック。このような各校の児童・生徒とのイ  
トヨを通じた交流は、次世代の環境意識の高  
まりを生むに違いありません。

伝える側と受け継ぐ側のきずな

# 次代に伝えるよじろいじろ



大槌まつり



イベントでの虎舞

「ゆずりは(譲葉)」という木をご存じだろうか。その名の由来どおり、この木の葉々は、「新しい葉が生長してから古い葉が譲って落ちる」という。単なる世代の交代ではなく、ものの有形無形にかかわらず、大槌の伝統は、世代と世代が、ともに何かを共有する時間を経て受け継がれる。その共有する何か。それがこのまちの「きずな」なのかもしれない。

海の男たちの心を捉え、受け継がれる虎舞、そして虎舞の枠を超えた地域活動

秋の大槌を彩る「大槌まつり」の華のひとつ、虎舞。この勇壮な舞いの起源には諸説があるが、前川善兵衛による交易を契機として大槌にもたらされたと伝えられています。ときは江戸時代中期。大坂の竹本座で人気を博していた、近松門左衛門の人形浄瑠璃「国

姓爺合戦」での一場面。「千里ヶ竹」で主人公の「和藤内」が猛り狂う虎を退治します。このシーンに感動した前川家の船方たちが古里に戻って虎頭をつくり、「虎舞」として踊り始めたと言われています。

その後、虎舞は、航海の安全を祈願するものとして、海の男たちによって代々受け継がれてきました。毎年の祭りの日には神輿や大神楽などとともに人々をまちに呼び込み、見る者の心をもひとつにします。

虎舞のそうした伝統的な舞が脈々と受け継がれる中、虎舞団体には新たな現代的な一面も見られます。大槌に五つある虎舞団体のひとつ、向川原虎舞では祭り翌日にごみ拾いを行って、地域とのつながりを強めています。

「特にまちに貢献しようというものではなく、普段からまちの人にはお世話になっているので、その恩返しに実施しています」

この気負いのなきがまた実に「粋」であり、地域に対する愛情が感じられる一言です。

## 幅広い世代に広がる「読み聞かせ」によるきずなの輪

次に、読書という共有体験を通じて、地域のきずなを深めている一例を紹介しましょう。

釜石市の会員とともに活動する読み聞かせサポーター「颯2000の会」。主として幼児から小学生を対象に、絵本の読み聞かせや紙芝居を、図書館などを会場に行っています。

「読み聞かせは、読み手の声が聞き手に愛情を感じさせ、また彼らの想像力も育てます。この共有の読書体験が子どもたちの心を癒し、そして生きる力になってほしい」

と同会では語ります。発足時はわずか三名だった会員数も、二十名ほどに成長しました。また現在では、読み聞かせの輪はさまざまな世代に広がっています。子どもたちに残らず、施設を訪問して老人の皆さんとも交流を図る「颯2000の会」。同会の他にも、町内の中学生が小学生に読み聞かせをする活動も行われるなど、読書体験を通じた大槌のきずなはますます深まり、人々の豊かな感性を育てています。



読み聞かせを行う会員と子供達



「颯2000の会」作成の手作り紙芝居

読み聞かせを楽しむ子供達





シイタケ栽培風景



JA東部営農センターでの干しシイタケ選別作業

**近世の画期的な商品開発**  
江戸時代。江戸の人々の大きな好評を得た「南部鼻曲がり鮭」を世に送り出したのは、幕府開府当時の大槌城主・大槌孫八郎でした。彼は爆発的に人口が増えた江戸の市場に着目し、それまで地元でのみ消費していた名産の鮭を塩引き(新巻)にして、江戸へ出荷したのです。上質の素材を加工して商品価値を高め、経済流通させたことは、まさに孫八郎の慧眼によるものでした。時代は下って、大槌と江戸・大坂を股にかけた豪商・前川善兵衛もまた、千石船による海産物交易、これがもたらす前川家の繁栄によって自らの理想をかたちにした一人と言えます。

**それぞれの理想を求めて**  
さて、三陸の海の幸のおいしさをより多くの人に届けたいという気持ちは、大槌孫八郎の昔も今も変わりません。港町にある「株式会社ナカシヨク」の冷凍生ワカメはそんな気持ちを「かたち」にした好例です。県水産技術センター考案の冷凍技術の応用によって、三陸ワカメの身とも言うえる歯ごたえと風味を損なわないまま長期保存を実現。コンビニや外食産業をはじめ多方面に販路を広げ、時間や距離を超えた多くの人のもとに届いています。山の幸に目を向ければ、各種品評会で上位入賞の常連となっている干しシイタケが挙げられます。昭和四十年代と早くから取



御社地ふれあい朝市



養殖ワカメの加工作業



南部鼻曲り新巻鮭



鮭の定置網水揚げ作業

り組んできた大槌の干しシイタケづくりには、豊富な経験の蓄積があります。中でも、干しシイタケの品質を左右する、シイタケの採取時期と乾燥の加減。そこで肝心となる気候やキノコの状態の見極めに、生産者の豊富な経験が活かされているのです。また、平成十九年(二〇〇七年)に前年比で出荷量が倍増したマツタケは、新たな「大槌ブランド」として期待される商品。山の管理を通じた品質の向上・維持に努めるなど、ブランド確立に向けて取り組んでいます。「御社地ふれあい朝市」や金沢の「おやちやい(高清水生産加工組合)」など町内の産直は、こうした生産者の努力の成果と消費者を身近につなぐ大切な場所となっています。



山や海の幸が一堂に会する大槌産業まつり

大槌発の「日本初」 Idea

理想をかたちにするということ



東京大学海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター



株式会社 千田精密工業



株式会社 エノモト

## Special Feature

### 「おおつち」から国内外へ—— 日々新たな成果を届けるために

## 大槌を拠点に活躍する 企業&研究所

また、グローバルレベルの研究拠点としての  
の利便性も向上しています。近年の通信ネット  
トワーク技術の進歩により、地球上で生じる  
自然現象を的確に読み取ることができるよう  
になってきただけでなく、同センターからも  
さまざまな情報を世界に直接発信できるよう  
になりつつあるそうです。

また、グローバルレベルの研究拠点としての  
の利便性も向上しています。近年の通信ネット  
トワーク技術の進歩により、地球上で生じる  
自然現象を的確に読み取ることができるよう  
になってきただけでなく、同センターからも  
さまざまな情報を世界に直接発信できるよう  
になりつつあるそうです。

赤浜にある東京大学海洋研究所附属国際沿  
岸海洋研究センター（旧大槌臨海研究セン  
ター）は一九七三年に設置され、二〇〇三年  
に現名称になりました。世界の三大漁場と  
して多様な豊富な水産資源に恵まれた三陸の  
海を研究対象に、沿岸域の物理・化学環境、  
沿岸生物の生態、沿岸域の保全に関する研究  
が行われています。

海洋に関する基礎研究を実施する全国共同  
利用研究施設としての機能も同センターの特  
徴の一つで、毎年、全国の大学から研究者が  
訪れています。利用者数も年々増加し、最近  
では年間六十から八十の研究課題が実施さ  
れ、延べ利用者数も四千人を超えています。

自然環境の良さや充実した研究設備、さらに  
大槌町の人たちの海洋研究に対する理解と協  
力といったことも含めた研究環境としての評  
判も上々です。

製造装置や液晶基盤製造装置部品の中でも大  
型のもの加工を、マシニングをはじめ、旋  
盤、溶接の工程により行っています。同社は  
二〇〇五年、英国TWI社が開発した「摩擦  
攪拌接合」技術の使用ライセンスを日本の中  
小企業としてはじめて取得、より高品質な製  
品づくりに活かされています。また、二〇〇  
六年には、経済産業省の「元気なモノ作り中  
小企業三百社」に選定されました。

人材育成にも力を入れているのが千田精密  
工業の特長で、前述の三工程の計画的なロー  
テーションと個別面談により、個々の適性技  
能を伸ばすとともに、特に若い社員には技能  
五輪や技能検定試験を積極的に受けさせて、  
仕事へのやる気を喚起しています。また、  
しっかりと技術習得した社員の独立開  
業も支援し、これまでに八名（うち大槌では  
二名）が独立しました。

その隣に立地しているのが、株式会社千田  
精密工業本社（奥州市）です。大槌工場は一九  
九五年より操業を開始。一九九七年の釜石工  
場の統合をはじめ、順次工場拡張を進め、今  
や同社の主力工場と位置づけられています。

同社の強みは顧客のニーズにきめ細かく応  
えられる高い技術力。大槌工場では、半導体  
「金型に入るパーツの加工は、パーツの精  
度で金型の精度が決まるほど重要な作業。千  
分の一、万分の一mmの精度が求められる金型  
づくりは、大槌の人たちのまじめな気質に向  
いていると言えるかもしれません」と同社では  
評価しています。

また、早くから海外展開を行ってきた同社  
では、現地スタッフへの技術指導にかかるコス  
トや時間の課題も抱え、より効率的な国内  
での金型技術の定着化も求められていました。

現在、大槌工場の主な事業は、半導体用のコ  
ネクタ用部品などの金属プレス加工品で、こ  
れに使用する金型も製作。携帯電話メーカ  
をはじめ多様な分野の顧客企業から提供され  
る製品設計図を基に製品化を行い、品質・納  
期ともに安定的な納品を実現しています。

既に数社の企業がこのような制度を利用し  
成果を挙げています。



一般公開の様子



調査船「弥生」



(株)千田精密工業作業の様子



(株)千田精密工業工場内部



(株)エノモト検査作業



(株)エノモトプレス製造部門の工程作業

# 小粒でもキラリと光る 素敵な<sup>みち</sup>くにへの途

高齢化の急速な進行、少子化や若年層の転出などによる人口減、不況の影響が続く地域の産業経済、環境保全問題、三位一体改革の進展による地方自治体の責任と負担の増加など、当町を取り巻く社会情勢は大きく変動しており、地方分権が進む中で町民が望むまちづくりを進め町が発展し続けていくためには町民と行政が協働して知恵をしぼり、町の資源である、もの、人、財源を活かし、産業振興、自治の仕組みづくり、安全安心なまちの確立、人材や地域活動の育成、生活環境整備、環境保全などを効率的・効果的に実践していくことが必要となっています。

当町は、第七次大槌町町勢発展計画において海に活かされる個性的なまちづくりの必要性を掲げ、広い地域に視点を置き、地域全体の個性として発展性のあるものでありたいと願い、第七次大槌町町勢発展計画の基本理念を「小粒でもキラリと光る素敵な<sup>みち</sup>くにへの出発」と定め、既成の地域や世代の枠を超え、この地に集う全てのの人に開放された<sup>みち</sup>くにへの向けて出発しました。遙か遠い昔から「海」とともに発展してきた当町は、これからの時代においても「海」との共生のもと、町民との協働を力にして、先人達が磨いてきた個性が光り輝く、明るい展望にあふれた途を進んでいきたいと思えます。

そして、その途は、当町がめざす<sup>みち</sup>くにへの向かう途であると捉えるものです。

第八次大槌町町勢発展計画は、当町の将来に向けた着実な発展を期し、まちづくりの総合的な指針として、すべての町民がいきいきと暮らし続けていくことができるまちを築き上げることを目的に策定したものであり、基本構想は平成十八年度から平成二十七年までの十九年、前期基本計画は平成十八年度から平成二十二年までの五力年を計画期間とし、六つの分野別方針を掲げています。



ショッピングセンター「シーサイドタウンマスト」

# 産業の活性化で 地域を元気に

**■水産業**  
 養殖施設の規模拡大、再編など漁場の利用方法の見直しや作業の省力化、機械化を進めながら就労環境の整備を促進し、安定した生産体制の維持を図ります。適正な漁場管理およびヒラス、アワビなどの種苗放流を積極的に推進し、資源の増大を図り安定した生産量、生産額確保の施策を展開します。  
 関係団体と連携しながら労働環境の改善、協業化の促進、計画的な出荷体制の確立に取り組むとともに、自主的な技術向上への支援、漁業集落環境整備の推進、大槌産ブランドの定着と販路確保への助成に努めます。  
 さらに緊急度および重要度を考慮しながら、使いやすい漁港環境保全および水産基盤施設整備を図ります。

**■農林業**  
 農道や林道、農業用排水路などの生産基盤の整備や担い手の育成に取り組むとともに、認定農業者などが実施する農地の取得、施設・整備導入を重点的に支援します。  
 農産物の高次加工、加工品の流通販売の促進、地産地消の推進、公共牧場の

有効活用による畜産の振興に努めます。健全な森林の保全のため森林組合などによる森林整備を支援します。限りある国土の有効活用と保全のため、土地の実態を正確に把握する地籍調査を実施します。

**■商工業・観光産業**  
 事業者・商団体等が自ら行う商業によるまちづくりの活性化の推進を支援し、大槌町中心市街地活性化基本計画を各関係機関と連携しながら推進します。経営の強化・充実を図るため資金融資、利子補給などの金融支援体制の充実、各産業分野間の協力体制のための情報収集・研究への支援を行います。  
 大槌町観光基本計画に基づき、「夏型観光」から「通年型観光」への移行を図り、観光客入込数の全体的な底上げをめざし、各観光関係機関と協力して展開します。

**■雇用・労働者支援**  
 働く場の拡大のため、特産品の研究・開発や新たな産業分野の開拓、業務拡大を行う地元企業、加工販売を行う生産者、加工業者などに対して積極的な支援を推進するとともに、近年の自動車関連産業の地方における業務拡大などの情勢を踏まえ、企業誘致のための環境整備として用地の確保や優遇制度の充実、企業訪問など、誘致活動の強化に努めます。地域の特性に応じた地域主導の雇用対策を推進し、関係機関と連携して新規学校卒業生などの労働力の確保および定着、中高年層の雇用確保と安定のために必要な事業を行います。



イワガキの品定作業



シイタケ栽培作業



ショッピングセンター「シーサイドタウンマスト」内部



大槌湾の定置網漁





# 協働による地域・行政経営



住民団体によるクリーンボランティア活動

### ■納税

課税客体の正確な把握と公平適正な賦課を進めるとともに、賦課税額の確実な収納による自主財源の確保に努めます。

また、広報などを利用した納税意識および国民健康保険制度の啓発活動を行うとともに、納税貯蓄組合のあり方を検討し、新たなシステムの構築を進めます。

### ■町の活性化・協働

効率的・効果的な事務事業の執行を進めるため、町民の行政に対するニーズの高度化・複雑化に対応できる業務体制づくりに努めます。

協働によるまちづくりに向けて、各地区・地域で対応可能なものは自分たちで実施していくという意識改革を進め、各地区町内会や自治会、NPO団体など各種団体の主体的な組織づくり、活動への支援を行います。



住民自治懇談会

# 住民と行政が ともに築く大槌の未来

### ■議会機能

町勢の進展と町民の福祉増進のため、執行機関の町と両輪となる議会および議員活動の円滑な運営の支援、議会機能の強化、議会活動のPRの拡充などに努めます。

### ■情報化への対応

常に進化し続ける情報化への対応では、都市と地方の格差が拡大しており、都市部同様のサービスを受容できるように、町全体のIT化による情報化を推進します。

### ■住民サービス

窓口サービス、選挙事務など、さらに効率的な事務を推進し、住民サービスの向上に努めます。

また、年金制度の周知と併せ、関係機関と連携し、保険料納付の啓発活動を行います。



大槌町立図書館内の様子



納税意識向上を促す看板



役場窓口



園児保育の様子

# だれもが安心して暮らせる町

## ■保健・医療・福祉

健康診査の受診から事後指導まで、町民の健康づくりに向けて一貫した体制づくりを行い、また、意識啓発活動を推進します。

医師の確保など地域医療体制の充実のための要請運動や関係機関との連携を強化します。

すべての町民が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう関係機関との連携を強化し地域での組織づくりやボランティア組織の育成を図り、支援体制を構築します。

また、在宅での介護と併せて身近な地域における介護施設整備への支援を図ります。

障害者の地域での自立した生活を支援するため相談センターを設置し、障害に応じた自立訓練・就労移行支援などのサービスを行います。

障害児に対する指導体制を整備し、必要に応じたサービスの提供を図ります。

## ■健康づくり・国民健康保険

児童の健全育成に向けて、相談体制の整備に努め、将来を見据えた保育事業の充実を図るため、保育所再編を進めます。

生活困窮者などに職業訓練・就職などを斡旋して自立支援を行うとともに民生児童委員など関係団体との連携による支援体制づくりを推進します。

町内会などの地域の団体と連携を強め、意識啓発やリーダー育成など、防犯交通安全活動を推進します。

町民に対して健康・財政・医療の三方向から医療費の内訳、受診状況などを通知するなど、年々増加している医療費の抑制を図るため国民健康保険事業の周知・啓発を図ります。

また、検診事業などを充実させるとともに健康づくり事業への参加を促すなど、疾病予防対策を推進します。

多機能ケアセンター  
ほっと大町



岩手県立大槌病院



特別養護老人ホームらふたあヒルズ



思春期ふれあい体験学習



**■学校教育**  
創造性と心豊かな、国際的視野を持った児童・生徒の育成をめざし、学校施設の整備では老朽化が進む校舎などの改修改築、耐震化を計画的に推進し、教育内容の充実では歴史・文化、自然などの教育資源を活かした特色ある教育課程を編成し、個を活かし個に応じた指導を行うとともに、地域・団体との連携による登下校時の安全対策や体力づくりの指導など、安全健康管理を強化します。

地域の特色を活かした体験活動、地域社会や世代間との交流を推進し、地域社会の一員としての自覚を持つて行動できる児童生徒の育成に努めます。

安全でおいしい給食の提供と食に関する指導・学習を進めます。また、給食施設の整備、安全および衛生面などの

## 地域が人を育て、人が地域を育てる



三世交代流みずき団子作り



姉妹都市フォートブラッグ市の生徒との交流



町立吉里吉里小学校新校舎

**■生涯学習**  
各地域の施設の利用率向上を図る体制を構築するとともに、町民一人ひとりが生涯学習やスポーツ活動に参加できるような事業を展開し、その後の学習や地域活動への活用などに主体的に取り組める環境づくりを進めます。

町民の自主的な文化活動の側面的支援を行い、また、文化財の保護については広く町民の意見・提案を取り入れ、施設の整備に向けて取り組めます。

町民が自主的に参加することを目的とした総合型地域スポーツクラブの創設をめざします。

図書館においては、利便性の一層の向上に向けて、積極的な情報発信を行うとともに、学校図書館との連携を進めます。

徹底を図ります。

**■国際化・国際交流**  
姉妹都市であるフォートブラッグ市との生徒間交流事業などをはじめ、大槌町国際交流協会やボランティアなどにより事業の拡大を図り、国際的視野を持った心豊かなたくましい青少年の育成を図ります。

国際交流協会を中心とした交流事業への支援を行い、町民に対しての啓発活動を促進します。



町立大槌北小学校授業風景



町民文化祭



秋さけ学校給食会



町立安渡小学校の天体望遠鏡



小鏡川水門



国道45号大槌バイパス  
 町道花輪田寺野線



大町雨水ポンプ場



消防団演習

## 災害に備える 体制づくり

■ **防災**  
 地域住民の生命、財産などを災害から保護し、または減災するため、関係機関との連携協力や自主防災組織などの協働による防災に関する計画の作成や見直しを行います。  
 町内会、婦人会などの組織やグループと連携を図りながら自主防災の組織化を図ります。  
 防災知識の普及を図るため、自主防災組織などのリーダーや十分な知識・技能を有する防災士を養成します。  
 各家庭における防災資機材の備蓄推進などの啓発活動や定期的な防災訓練などを実施します。

■ **社会基盤整備**  
 道路や住宅の整備・管理は優先順位の検討を行い、町民の理解を得ながら事業を進めます。  
 大雨による被害が恒常的となっていく

る地区や災害が予想される地区に対する計画的な防災施設整備、災害時の緊急対応体制の強化、危険箇所の周知の徹底を図ります。  
 また、交通・避難路を確保し、町民の財産である家屋などを守るため、雨水排水施設や排水路の整備推進に努めます。  
 建築後、一定の年数を経た木造住宅について、一定条件のもとで費用の一部を助成し、耐震診断の推進を図ります。

■ **消防・救急**  
 各種の災害に迅速に対応できる消防団員の確保と資質向上を図ります。  
 広域的な計画をもとに消火栓、防火水槽などの消防施設整備の優先順位を検討し、町民の理解を得ながら災害に対応するための施策を進めます。  
 救急救命士の育成、救急隊員の体制整備と技能の向上など、町民の生命を守るための施策を推進します。



住民による救助訓練の様子



自主防災組織による  
 防災マップ作成の様子



■**循環型社会の形成・環境保全**  
 町民の自主的活動を支援し、資源のリサイクルとゴミ減量化を促進するとともに、より高い環境基準に十分対応した施設を整備し、環境保全と循環型社会の形成に向けた施策を推進します。

環境保全や公衆衛生に対する町民の意識向上のための周知・啓発活動を行います。

イトヨ保全のための環境づくり、保全に取り組む関係機関への情報提供、支援を行います。

■**環境整備**  
 整備率の向上と併せ、下水道の普及促進のための水酸化に関する融資制度などの広報活動、イベントなどでのPRを積極的に進めます。

ふれあい運動公園などの計画的な施設整備を進めるとともに、町民が安心して利用できるよう公園の維持



大槌町植樹祭

# 人と自然が共存する快適な町



小槌川溪流

管理を図ります。

■**水道事業**  
 水道事業経営ビジョンに基づき、維持管理コストの削減や適正な事業経営に努めるとともに、簡易水道の上水道への統合を図ります。

水質管理体制や地震など災害時における体制の整備を強化し、併せて利用者サービスの向上や長期的視点に立った計画的かつ効率的な施設の更新、基盤整備を進めます。

■**環境衛生**  
 下水道整備区域外の地区での合併浄化槽の設置促進を図るなど、水酸化率の向上をめざした施策を実施します。

築三十年以上を経過している斎場について、斎場建設検討委員会において、新たな施設の整備について検討します。



大槌ふれあい運動公園



大槌浄化センター



資源ゴミの分別作業



釜石広域ウインドファーム (新山高原)

# 「議会」

An assembly



## 大槌町議会議員名簿

1. 東梅 康悦	11. 赤崎 幾哉
2. 小松 則明	12. 後藤 高明
3. 里館 裕子	13. 伊藤 安男
5. 阿部 敏雄	14. 岩崎 松生
6. 金崎 悟朗	15. 伊藤 之夫
7. 及川 伸	16. 阿部 六平
8. 阿部 義正	17. 阿部 佑吉
9. 阿部 勝浩	18. 野崎 重太
10. 芳賀 陽一	19. 岡本 大作

※4番は会議規則により欠番



副議長 野崎 重太



議長 岡本 大作

# 「行政」

Administration

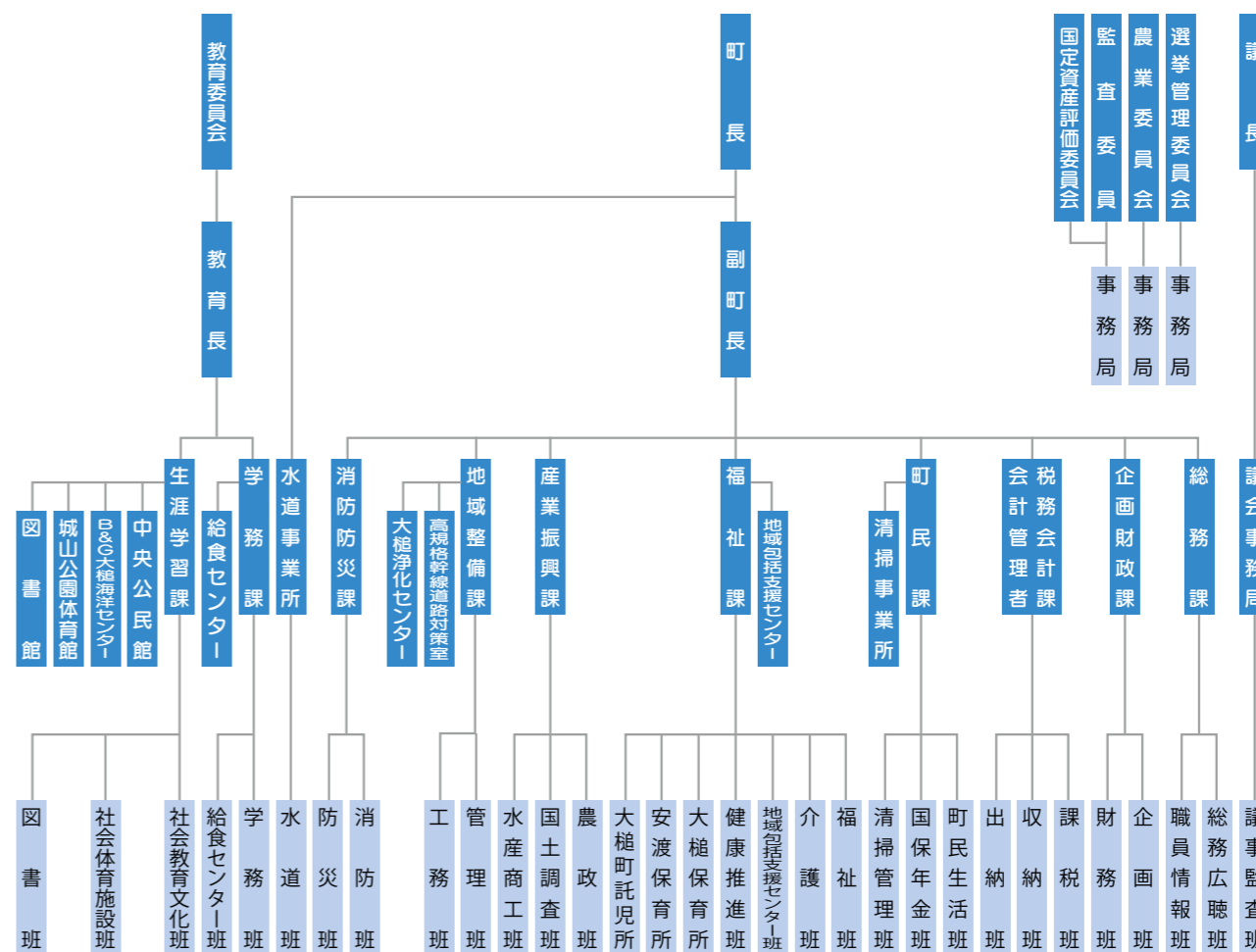


副町長 東梅 政昭



町長 加藤 宏暉

## 行政組織図



行政の最大の使命は住民へのサービスです。これからますます進む国際化や情報化、少子高齢化社会などに伴って、行政に対するニーズは複雑多様化してきます。住民のニーズに対応し、充実した行政サービスと行政運営の体制づくりに努め、住民主体のまちづくりを目指します。

## 主要公共施設

御社地ふれあいセンター



末広町3-38 TEL0193-41-1055

浪板交流促進センター



吉里吉里11-25 TEL0193-44-2101

B & G大槌海洋センター



吉里吉里3-499 TEL0193-44-3117

大槌町立図書館



大町7-2 TEL0193-42-7226

大槌町中央公民館

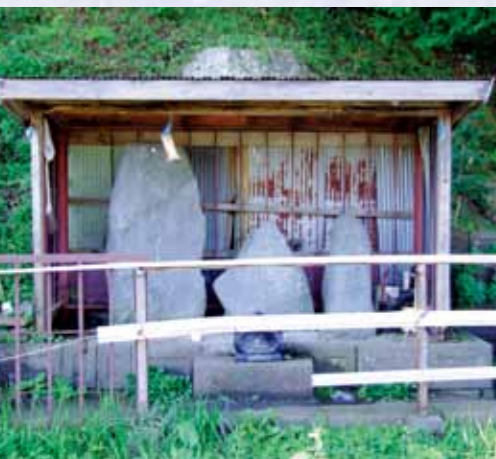


小鐘32-126 TEL0193-42-3030

大槌町役場



新町1-1 TEL0193-42-2111



宝暦・天明飢饉の供養塔

慶応元 (一八六五)  
文政6 (一八二四)  
享和2 (一八〇二)  
享和元 (一八〇一)  
寛政12 (一八〇〇)  
天明6 (一七八六)  
天明3 (一七八三)  
安永7 (一七七八)  
安永4 (一七七五)  
明和2 (一七六五)  
明和元 (一七六四)  
宝暦13 (一七六三)  
宝暦8 (一七五八)  
寛保元 (一七四二)  
寛保3 (一七四三)  
宝暦3 (一七五三)  
宝暦3 (一七五三)  
寛保元 (一七四二)  
寛保3 (一七四三)  
元禄17 (一七三三)  
元禄元 (一七三六)  
元文3 (一七三六)  
元文3 (一七三六)  
享保5 (一七二〇)  
享保11 (一七二六)  
享保5 (一七二〇)  
享保11 (一七二六)  
宝永4 (一七〇七)  
享保元 (一七〇七)  
宝永3 (一七〇六)  
元禄14 (一七〇二)  
元禄5 (一六九二)  
天和2 (一六八二)  
寛文年間中 (一六七〇~一六七三)  
慶長16 (一六〇〇)  
慶長18 (一六二二)  
元和2 (一六六六)  
元和4 (一六六八)  
寛永元 (一六二四)  
寛永9 (一六三三)  
寛永19 (一六四二)  
万治2 (一六五九)  
寛文年間中 (一六七〇~一六七三)  
天和2 (一六八二)  
元禄5 (一六九二)  
元禄14 (一七〇二)  
宝永3 (一七〇六)  
宝永4 (一七〇七)  
享保元 (一七〇七)  
享保5 (一七二〇)  
享保11 (一七二六)

## 菊池秀井慈泉・ 菊池佛眼祖晴

### 江戸時代の宗教家

菊池秀井慈泉(一七二六〜一八〇二)は、大槌町八日町の裕福な菊池家に生まれ、四代目佐兵衛を名乗っています。幼い頃より学業を好み、二十歳の頃剃髪して禅僧となり秀井慈泉と名を改めています。

慈泉は、人生の半分以上を全国の霊山聖地を訪ねてさまざまな師を得、修行をしています。帰郷後、古廟山を開き、村人の世話をし、国家安泰を願い、或いは海上安全、大漁祈願を行い、一字一石の経文を三賣島、蓬萊島などに納めています。また、慈泉は寛政十一年(一七九九)年、大槌城主孫八郎の霊場が五戸奥瀬村山麓の不動堂であることを知り、その墓の土を持ち帰り、一字一石の経石とともに、壺に入れ大槌城の頂上に埋葬し冥福を祈ったとされています。飢饉時には私財を投げ打ち飢えて苦しんでいる人を助け、また路傍で倒れた仏を集め堂ヶ鼻の畑に埋葬し供養塔を建て厚く供養したことは、古廟山入り口にある供養塔に知り知ることが出来ます。

また、秀井慈泉の三歳連れの弟菊池佛眼祖晴は、現在の御社地ふれあいセンター前にある御社地に東梅社という庵を拓いた宗教家でした。兄と同じ仏道修行に励み全国行脚の旅を続け、各地の僧侶識者に教えを受けて帰郷しています。なかでも菅原道真に深く傾倒し天満宮から分霊を勧請しています。

祖晴は学識においても歌人としても兄の慈泉より勝るものがあつたと伝えられ、元来の慈悲心によつて村人に仏の道を説き、子供たちに学問を教えていました。村人から東梅社の先生などと呼ばれ親しまれていたことから祖晴の人間性を垣間見ることが出来ます。最後は、断食修行により生き往生したと伝えられています。

## 縄文から江戸時代



大槌城跡

縄文早期  
縄文中期  
縄文晩期  
弥生時代後期  
奈良・平安時代  
文政2 (一八二六)  
建武元 (一三三四)  
永享9 (一四三二七)  
天正19 (一五九一)  
慶長5 (一六〇〇)  
慶長16 (一六二二)  
慶長18 (一六二二)  
元和2 (一六六六)  
元和4 (一六六八)  
寛永元 (一六二四)  
寛永9 (一六三三)  
寛永19 (一六四二)  
万治2 (一六五九)  
寛文年間中 (一六七〇~一六七三)  
天和2 (一六八二)  
元禄5 (一六九二)  
元禄14 (一七〇二)  
宝永3 (一七〇六)  
宝永4 (一七〇七)  
享保元 (一七〇七)  
享保5 (一七二〇)  
享保11 (一七二六)

崎山升天遺跡から早期末葉の尖底深鉢土器出土  
夏本、赤浜Ⅱ遺跡から多数の竪穴住居跡検出  
櫛伏遺跡から精製土器が多数出土  
弥生時代後期の住居跡が夏本遺跡から検出  
夏本遺跡から八世紀前半の住居跡を発見  
沢山遺跡から平安時代の住居跡を検出  
明空上人が光願寺を草創したとされる  
大槌氏が大槌城を築城したとされる  
大槌孫三郎が遠野阿曾沼氏を攻める  
永享の乱起る  
九戸正実の乱に大槌孫八郎広信が兵六千人率いて南部信直に参陣  
大槌孫八郎、和賀一揆鎮圧に参陣  
三陸沿岸大地震・大津波あり  
大槌孫八郎政貞失脚  
大槌孫八郎政貞奥瀬家に蟄居中に自刃  
大槌氏滅亡  
金沢村の助右衛門が安瀬ヶ沢の金山草分(試掘)を願い出て許可される  
大槌城代を廃し代官を置く。大槌代官所が設置される(初代代官・針清七)  
大槌代官が二人制となる  
南部の命により大槌城を売却  
寛文年間中に大槌村、小鎌村の境界紛争起る  
小鎌村にきりしたん禁止の制札が建てられる  
四日町(上町)の浄土宗見生山大念寺の開山  
南部藩大槌に海辺奉行をおき、釜石に十分一取立役所をおく  
前川善兵衛二代富永、九三十両を南部藩に献金  
この年、三度大槌地方を洪水襲う  
吉祥寺を古寺から引き移し現在の地に再建する  
鳩崎稲荷から現在の地に神社を移遷、二渡神社と称す  
小鎌神社、古明神の地から現在の城内の地に移遷  
古廟山を開山した菊池慈泉が生まれる  
牧庵兼牛(二十三歳)が吉里吉里吉祥寺の活堂見牛(大判見牛)のもとで修業  
向川原海龍山江岸寺が類焼。本尊以外全焼  
南部藩主三十三代利根公が大槌巡見。前川善兵衛宅に宿す。この時の巡見で安渡浦を巡航し、珊瑚島を蓬萊島と名付ける八日町(現本町)で大火事となる(八日町四九軒、向川原七軒、四日町二軒類焼。原因放火による)  
正法寺三十世住職、東光良善大和尚(寂照軒)が大念寺に私塾を開く  
日光東照宮修復の為、前川善兵衛四代富員、藩より御用金七十五百両を命ぜられる  
吉里吉里赤沼に法華経一字一石経塚を築造  
菊池祖晴が現在の御社地に東梅社創立  
牧庵兼牛和尚が山田織笠から大槌に抜ける裏街道を開削  
菊池祖晴が九州大宰府に至り天神社の分霊を奉持、東梅社に祀る  
牧庵兼牛和尚が御廟坂を開削。小鎌川に架橋する(橋供養あり)  
牧庵兼牛和尚が吉里吉里坂を吉祥寺和尚見牛大判と共に開削  
天明の飢饉始まる  
菊池慈泉が宝暦・天明両飢饉の餓死者の為に供養塔建てる  
代官所物書の小川孫兵衛、「官職記」完成  
前川家所有の御免石船「明神丸」の大修理  
伊能忠敬が大槌海岸周辺を測量。藤屋に宿す  
田鎖丹蔵が改良建網の「たんぞう」を完成させ、漁場開拓に乗り出す  
菊池祖晴が大般若経六百巻を書写。この年、生身往生を遂げる  
山師平助が南部藩から金沢金山の「草分け証文」(試掘)の許可を受ける  
弘化四年の百姓一揆起る  
大槌村と吉里吉里の両村海境を確認  
嘉永六年の百姓一揆起る(三閉伊一揆)  
藩主新渡戸伝の計画による三本木(十和田)の原野開拓に、大槌から金崎家、後藤家、前川家、里館家等が資金を提供  
碓川新砲台場普請懸に前川善兵衛、芳賀惣兵衛が任命される

## 金沢の金山

### 栄華のなごり 夢の金山



金沢御山大盛之図

## 海の豪商 前川善兵衛

### 南部藩最大の豪商は大槌の商人



前川善兵衛歴代の墓地

吉里吉里善兵衛と前川善兵衛は、初代碓右衛門、二代目善兵衛となりこれ以降善兵衛を襲名しています。初代碓右衛門は元禄年代に五十石積の船を建造常陸の貿易商白土次郎左衛門と取り組み伊豆の産物を集荷、他領に販売しています。  
その後、南部藩の特権商人となつた前川家はさらに漁業と海運業で財を成していきます。大型船を使った海上輸送により大量の海産物を江戸や大阪に送り込み巨利を得ます。いり、干しアワビなどの長崎産物、鯉節、塩鯉、干しスル、干し赤魚などや海藻、さらに米穀類、木材など手広く扱い、三代目善兵衛助友の頃には、他領にも名売が知れ渡るほど隆盛を極めました。  
また、南部藩の財政を除で支えていたのも前川家でした。二代目善兵衛から引き継ぎ三代目助友親子が南部藩に貢じたお金は千七百両にもなりました。さらに、宝暦三(一七五三)年、幕府の命で日光東照宮を修復することにより、南部藩は七万両を負担しなければならぬ状態に陥りました。藩内の富豪や士分にその負担金を割り当て、盛岡城下の百六人の商人が合計四千八百両を負担したのに対し、四代目善兵衛富員が一人で抛出した金額は、藩を引当てたとは言え、なんと七千五百両もの大金でした。藩内最大の豪商と称されるゆえんはそのあたりからも垣間見ることが出来ます。  
三陸の豊富な海産資源が商品価値を上げることにより、当初は小規模な漁法でしかなくたものが、海運の進歩により大量に搬出されるようになると、漁法、漁場の開発や、船の大型化などの改良が進んでいきました。また、販路が関東や江戸を主体とするところから、遠い市場に送るためには塩蔵品に加工する必要があり、塩の需要が急激に増加、製塩場の改良も促されていきます。  
江戸時代に「みちのくの紀伊国屋文左衛門」と称された代々前川善兵衛が残した水産海運業への功績は多大なものがあり、今でも大槌の誇りとして語り継がれています。

昔から砂金が採れた金沢村現金沢地区(で本格的に金の採掘、精錬が行われるようになったのは、慶安年間(一六四八年〜一六五一年)頃と伝わっています)が、実際に金山経営で賑わい始めたのは、正徳年間(一七一一年〜一七二五年)、享保年間(一七二六年〜一七三五年)頃といわれています。金山を最初に見立てた山師や採掘、精練の人々が他領からも入り込み、左近、右近という者が大いに金山経営で豪勢を振るつたという伝説が伝えられています。  
その後、文政六年(一八三三年)、一時休止となつた雲之峰金山を経営したのは金沢村の栄助、竹治郎、市朗の三人でした。この三人は、田畑や馬を売り払いきの再発掘に情熱を燃やしていました。そして、再び盛山の光が見えることになり、商人や藩に横取りされ、細笠の昆仁兵衛が十年間の経営権を許可されることになりました。  
文政十一年(一八二八年)年、昆仁兵衛は、雲之峰金山の残り四年の経営権を売り出し、八日町の文助なるものに譲渡しますがその後金山は廃坑の道をたどることにしました。  
天保六(一八三五年)年、山師平助が大槌代官所に金山の採掘の許可を願い出ます。平助は、金山を見立てる山先山師でした。経験を生かして廢山となつた金沢金山を見事蘇らせ、最盛期を迎えていきます。しかし、これも藩営となり、再興に努力した人々の苦勞は報いられていません。  
この後同村佐野金山も嘉永六(一八五三)年、兼沢平助の発見により再開されつつありましたが、これも南部藩に引き取られ、経営権を失っています。  
雲之峰金山の経営も天保年間をピークに次第に衰へてはいますが、何故か再興の努力をかすめ取られていた村人たちは、それでも借財のため元の盛山への夢をいつまでも断ち切ることができません。  
今では往事の栄華の面影はなく、金沢金山は伝説と化した地元で語り継がれています。

# 津波

繰り返り押し寄せる  
災禍に負けず



チリ地震津波の被害の様子

太平洋沿岸部は有史以来度重なる津波の被害を受けました。古くは貞観八（八六九年、慶長十六（一六一一）年などに津波があり、これにより三陸沿岸で溺死した人は数千人にも及ぶといわれています。  
近年では明治二十九（一八九六）年、昭和八（一九三三）年の三陸大津波、昭和二十五（一九五〇）年のチリ地震津波により大槌町は甚大な被害を受けています。  
明治二十九（一八九六）年六月十五日の端午の節句の夜、午後八時過ぎのことでした。その日は、日清戦争の凱旋兵の祝賀会が催され洲崎の海岸で花火見物が行われていた。この大津波が押し寄せました。地震の揺れが小さかったこと、花火の音にかき消されて津波に気づくのが遅かったという不運が重なり、町内だけで五百九十九人が波にのまれて亡くなっています。  
また、昭和八年の大津波でも死者六十二人を出しています。三月三日午前三時十分頃に津波が来襲していますが、その前に震度五の地震がありました。この強震により寝静まり返っていた人たちは驚いて皆布団から飛び起き、津波に備えたこと、明治の三陸大津波より被害が少なかったといわれています。  
さらに、昭和十五年（一九六〇）年のチリ地震津波では、五百軒近い家が被害を受け、五百艘以上の船が流されています。この時には死者が一人も出なかったこととは不幸中の幸いでした。これは、引き潮の異変に気づいた浜の人が、すぐ消防団へ連絡、宮古測候所に確認を入れたもの、津波襲来の知らせはないとの返事でした。ところが、今までの教訓から大槌町は単独で津波警戒警報を出し、機敏に行動したことで多くの人命を救ったことになりました。  
現在町では人命と町の財産を守るために防災システムの確立と、津波、高潮に対する防災施設の整備が進んでいます。

## 環境

人の意識の高まり



「魚もほくもウキウキワクワクワ海づくり」をテーマに平成九年十月五日、大槌町の大槌漁港を会場に天皇皇后両陛下ご臨席のもと第十七回全国豊かな海づくり大会が開催されました。全国豊かな海づくり大会は、水産資源の維持培養と海の自然環境保全の必要性を広く国民に訴えることを目的に、昭和五十六年から全国で開催されているものです。  
式典では、天皇陛下から今後の水産業と豊かな海づくりへの御言葉が述べられたあく、つくり育める漁業の推進、森と海の環境保全、漁業後継者の育成を決意して、次代を担う海づくり少年団などの代表が全国にメッセージを発信しました。  
また、水産関係者を始め県内外から約二万三千人が参加して見守るなか、天皇、皇后両陛下によるマンカワ、ヒラメの稚魚の御放流に加え、漁業後継者や海づくり少年団による放流が行われています。  
これを機に大槌町では住民を中心とした植樹活動が始まり、環境への関心が高まっています。

## 交通

発展の期待を担う新しいアクセス



国道45号バイパス開通式

平成四年三月十九日、関係者が見守るなか一般国道45号大槌バイパスが全線開通しています。  
当時、町中心部を通る国道45号は、交通量が年々増加してきたことにより朝夕の通勤時や観光シーズンは交通渋滞を引き起こし、日常生活に大きな弊害を及ぼしていました。  
昭和五十四年、主要幹線道の機能低下を解消するために古廟坂から安波小学校裏までを結ぶ総延長二・四キロメートルのルートが国の承認を受け、総事業費七十億円を投入して五十六年度から事業に着手、六十一年から本格的に工事が行われています。  
事業着手から十一年目、大槌バイパスの夏本トンネル南側で開通式が行われ、バレットにはなんと車輛七十七以上が連なり、交通安全母の会をはじめ式典の見学に集まった住民も歓声を上げて開通を祝いました。  
大槌バイパスの開通により、現在では大槌町市街地における交通は円滑化され、大槌バイパスとの役割分担がはっきりしたことで、交通の安全確保、地域間の経済交流が活発に行われるようになっていきました。

- 平成19 (二〇〇七)
- 平成18 (二〇〇六)
- 平成17 (二〇〇五)
- 平成16 (二〇〇四)
- 平成15 (二〇〇三)
- 平成14 (二〇〇二)
- 平成13 (二〇〇一)
- 平成12 (二〇〇〇)
- 平成11 (一九九九)
- 平成10 (一九九八)
- 平成9 (一九九七)
- 平成6 (一九九四)
- 平成5 (一九九三)
- 平成4 (一九九二)
- 平成2 (一九九〇)
- 昭和56 (一九八一)
- 昭和57 (一九八二)
- 昭和58 (一九八三)
- 昭和59 (一九八四)
- 昭和62 (一九八七)
- 昭和47 (一九七二)
- 昭和48 (一九七三)
- 昭和50 (一九七五)
- 昭和30 (一九五五)
- 昭和33 (一九五八)
- 昭和35 (一九六〇)
- 昭和42 (一九六七)
- 昭和43 (一九六八)
- 昭和46 (一九七一)
- 昭和27 (一九五二)
- 昭和20 (一九四五)
- 昭和23 (一九四八)
- 昭和25 (一九五〇)
- 大正12 (一九三三)
- 昭和8 (一九三三)
- 明治14 (一九一九)
- 明治20 (一九四五)
- 明治36 (一九〇三)
- 明治42 (一九〇九)
- 明治2 (二八六八)
- 明治4 (二八七一)
- 明治6 (二八七三)
- 明治22 (二八八九)
- 明治29 (二八九六)
- 明治30 (二八九七)

### 明治から現代

大槌地方は松本藩（信州）戸田家の取締に属する。  
大槌通は江刺県治下に含まれる。  
大槌代官所保有諸品半被・脚半・陣旗・燈籠・檜棒・脇差等）入札を江刺県に上申  
大槌郵便取扱所開設  
公立大槌小学校、黒澤武兵衛宅を借用第一九中学区小鍬第八番小学校として開校  
市町村制実施。小鍬村、大槌村、吉里吉里村合併新大槌町となる。  
大津波来襲（明治二十九年の三陸大津波被害戸数六七〇、死亡五九九人）津波損害高三七、〇〇〇円余  
郡制実施により西南閉伊郡が開閉伊郡と改称、大槌町も郡内に含まれる  
吉里吉里漁業組合設立認可される  
大槌浦漁業組合設立認可される  
大槌町御社地（現町名、大町）に、さけの人工孵化場が町営で創設され、大槌川、小鍬川におけるさけの人工孵化放流事業を開始  
大槌郵便局電話交換業務開始  
大地震、大津波来襲。浪の高十三尺、溺死者六十二人、流失倒壊戸数六三三戸、三陸大津波  
山田線大槌釜石間工事完了し、全線開通  
岩手県医業連が大槌病院を開設  
釜石、米海軍の艦砲射撃と空襲を受ける  
大槌町も艦載機の襲撃を受ける  
大槌町および金沢村農業協同組合設立  
大槌病院が県営に移管、県立大槌病院と改称  
社団法人大槌商工会創立  
大槌町教育委員会発足  
大槌町、金沢村と合併  
陸中海岸国立公園指定  
大槌魚市場完成  
チリ地震津波襲来  
田滿融と飛躍を象徴した町章が決まる  
筋山道路開通  
国道45号古廟坂トンネル開通  
リアス・シーニックライン開通  
大槌・赤浜・吉里吉里の三漁協が合併し、大槌町漁業協同組合発足  
国道45号全線開通  
町民憲章、町民歌、新大槌小唄決まる  
県道大槌一小国間開通  
大槌川鮭捕獲六三、〇四九尾で本州一となる  
東京大学海洋研究所開所  
井上ひさし氏著SF小説「吉里吉里人」ブーム  
観光独立国・吉里吉里国の独立記念式典  
桜木町真山山林火災で被害額一億三千万円  
吉里吉里海岸の砂が「鳴り砂」であることが立証される  
東京都武蔵野市で「ふるさと大槌会」設立総会  
町制施行百周年記念式典  
三陸45号大槌バイパス開通  
三陸・海の博覧会協賛事業として「おおちよ海洋性動物展」開催  
郊外型ショッピングセンター「シーサイドタウンマスト」オープン  
キャラクターマークの愛称を「おおちやん」に決定  
三陸地方拠点都市地域の指定を受ける  
平成九年「第十七回全国豊かな海づくり大会」の開催会場地に大槌漁港が決定  
町の魚を「さけ」に決定  
第十七回全国豊かな海づくり大会天皇皇后両陛下ご臨席の下開催  
浪板海岸が環境庁「日本の水浴場五五選」に選定  
広域消防の実施  
大槌町公共下水道通水式  
総合研究大学院大学の共同研究会が秋篠宮殿下出席の下開催（イトヨ確認）  
おおちやんネットワーク稼働  
飛内山国有林火災。約二十四杉焼失  
アメリカ合衆国カリフォルニア州フォートブラッグ市とのホームステイ交流開始  
町立図書館開設  
自然と共生するまちづくりシンポジウムが秋篠宮殿下出席の下開催  
釜石広域風力発電事業ウインドファーム建設に着手  
大槌港灯台点灯五十周年  
吉里吉里小学校新校舎落成  
釜石広域風力発電事業ウインドファーム開始  
岩手県植樹祭開催  
フォートブラッグ市と姉妹都市締結調印  
町村合併五十周年記念式典  
新山展望台完成  
小鍬川水門概成管理受託開始式  
源水川の淡水型イトヨの天然記念物に指定される  
赤浜・浪板児童館開館、金澤保育所閉所  
夜行高速バス「遠野・金石号」運行開始

## 大槌町の史跡 HISTORIC SPOT



夏本遺跡から多数の竪穴住居跡を発見



金糞平の山姥



大槌代官所跡近世の上水道跡を検出

旧大槌街道



御社地



宮の口判官堂



幕末の緊張を伝える碓川砲台場跡





# 四季の躍動

Activator

春に祈り、夏を楽しみ、秋をよこびながら、来る冬にそなえる…四季とともに営まれる暮らしのなかで生まれた躍動的なイベントの数々は、大槌の地域性を象徴しています。



④町長杯サーフィン大会



③大槌まつり



②鮭のつかみどり



①鮭バーベキュー

- 4月 ひょうたん島まつり  
 5月 鯨山トレッキング  
 6月 新山高原まつり・大槌町植樹祭  
 6月 町長杯サーフィン大会  
 7月 浪板・吉里吉里海岸海開き  
 8月 大槌夏まつり  
 8月 炎の祭典野焼きまつり  
 8月 吉里吉里祭り  
 9月 大槌まつり・大槌稲荷神社祭典  
 9月 大槌まつり・小槌神社祭典  
 10月 おおつち産業まつり・大槌町農業祭  
 11月 鮭の一本釣り  
 11月 鮭バーベキュー  
 12月 鮭のつかみどり  
 1月 大寒みそぎ

## 年間予定 イベント

### ①鮭バーベキュー (11月)

鮭をメインにした新鮮な魚介類のバーベキューを、虎舞や鹿踊などの勇壮な郷土芸能を見ながら楽しめます。鮭の消費拡大もねらいとして「鮭の町大槌」の魅力を発信します。

### ②鮭のつかみどり (12月)

大槌川河川敷で開催され、5分間の制限時間内に鮭をつかみ取るイベントです。会場では、生鮭、新巻鮭、イクラなどの特産品なども販売されます。大槌鮭の三大祭りをしめくります。

### ③大槌まつり (9月)

閉伊七社の明神の一つと言われた小槌神社と大槌郷の総鎮守として崇敬されていた大槌稲荷神社の合同の祭典です。神社境内から出発した御輿を先頭に、山車や手踊り、大神楽、虎舞などの郷土芸能が勢揃いし、大槌の町を練り歩きます。

### ④町長杯サーフィン大会 (6月)

世界でも珍しい片寄せ波の海水浴場として知られている浪板海岸は、一年中サーフィンを

楽しむ若者達のメッカでもあります。毎年開催されるサーフィン大会には多くのサーファーが集まり様々なイベントが行われます。

### ⑤大寒みそぎ (1月)

大寒の日に近い日曜日の早朝が選ばれ、大槌稲荷神社氏子青年会の若者が中心となって、下帯ひとつで浪板海岸の海に入ります。約30～40名の若者が、海水で身も心も清めて一年の抱負を誓い、無病息災を願います。

### ⑥鮭の一本釣り (11月)

鮭の力強い引きが楽しめる体験型イベントとして、全国的にその名を高めつつあります。シーズンの到来を心待ちにしている遠来の釣り客も訪れます。町をあげての歓迎態勢で行われています。

### ⑦炎の祭典野焼きまつり (8月)

縄文時代と同じ方法で土器を作ります。各自が土をこねるところから始めて、形にした作品を1カ月ほど自然乾燥させてから、土を盛

りワラなどを積んだ窯で焼きます。参加者全員が協力して作業を行います。

### ⑧ひょうたん島まつり (4月)

井上ひさし氏原作の「ひょうこりひょうたん島」のモデルとされている大槌湾に浮かぶ蓬萊島。漁業の安全と大漁豊作を祈願するまつりで、前夜祭での蓬萊島のライトアップに始まり、郷土芸能等様々なイベントが開催されます。

### ⑨大槌夏まつり (8月)

御社地公園を主会場として、ステージイベント、虎舞群舞他が行われ、暑い夏の夜に涼を求めて大勢の人で賑わい、夏一番の盛り上がりを見せるまつりです。

### ⑩新山高原まつり (6月)

町の花に指定されている新山つつじが高原に咲き誇り、山が真紅と緑で鮮やかに彩られた初夏に開催されるイベントです。新山高原の大自然の中で、郷土芸能などの、ステージショーやボニーの乗馬体験などを楽しめます。



⑩新山高原まつり



⑨大槌夏まつり



⑧ひょうたん島まつり



⑦炎の祭典野焼きまつり



⑥鮭の一本釣り



⑤大寒みそぎ

# 印象の創造

Creation

神がつくった自然の造形美や先人がつくった誇るべき歴史の足跡。その場所に立ち、吹きぬける風と一体になった時、なにかが聞こえてくるかもしれません。



⑧新山高原



⑥鯨山



③浪板不動滝



⑦崎山展望・野島



④高滝



①浪板海岸

## 新大槌八景

### 日本一の干しシイタケ

大槌町の干しシイタケは、どんこ(傘が5~6分開きの時に採取したシイタケ)を冷涼な気象条件のなかでゆっくりと乾燥させているため、肉厚でれみがあり、歯ごたえがあるのが特徴で、全国的にも高い評価を受けています。

世界の三大漁場の恵みを受ける三陸では、なんといっても新鮮で上質な海産物が自慢。そして素材をいかした加工品にも大槌らしさを感じられる。



### 地酒

明治29年創業の町内唯一の酒蔵・赤武酒造株式会社の銘酒「浜娘」。大槌の豊かな海の幸をあわせて一献もてなすには絶好の地酒。

### 冷凍生わかめ

三陸ブランドの生わかめをいつでも旬のおいしさそのまま味わうことができる冷凍生わかめ。鮮度の良い状態で冷凍しているためミネラル成分が多く含まれます。現在は業務用として大手コンビニのサラダ等に利用されています。

### 物産



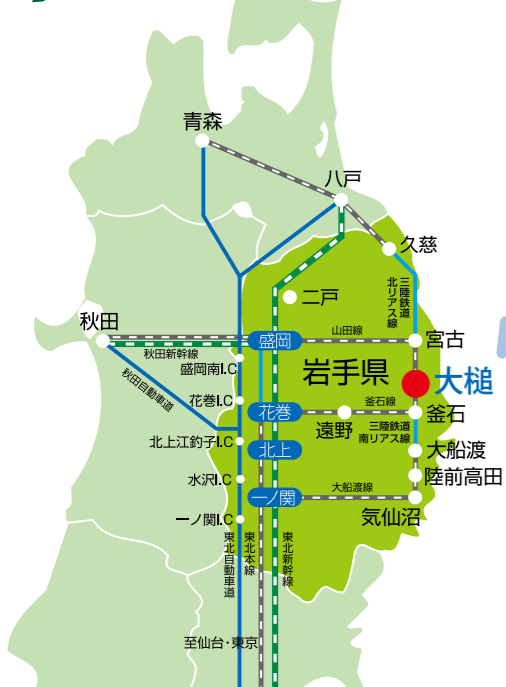
⑤城山公園



②蓬莱島

- 浪板海岸**  
サーフィンなどのマリンスポーツが楽しめる、白砂青松の美しい海岸です。寄せても返すことのない片寄せ波が有名です。
- 蓬莱島**  
NHKの人情劇「ひよっこひょうたん島」のモデルといわれています。赤浜から約400m続く防波堤を歩いて島に行くことができます。
- 浪板不動滝**  
鯨山の麓、清冽な水が15mの高さから豪快に滝壺に流れ落ちます。春と秋、鯨山神社で浪板神楽が奉納され、荘厳な雰囲気醸し出します。
- 高滝**  
地図になかった滝として知られており、男滝と女滝があります。有志によって大観音も奉納されました。近くには人面岩もあります。
- 城山公園**  
大槌氏の山城があった場所で、四方を囲む山々と、港の遠景が望め、大槌川・小槌川にはさまれた自然豊かな歴史公園です。
- 鯨山**  
鯨にまつわる伝説の残る霊峰です。入り組んだ海岸線を、標高610mの絶好のポイントから見下ろすことができます。
- 崎山展望・野島**  
崎山展望台の真下に見えるのが野島です。四季を通じてドライブの人が訪れ、初日の出を望む絶好のポイントとしても知られています。
- 新山高原**  
新緑から初夏の季節にかけて、町の花に指定されている「新山つつじ」で山一面が包まれます。放牧も行われており、遺跡や石割桜などの名所があります。また、風車が立ち並び壮観感があふれます。





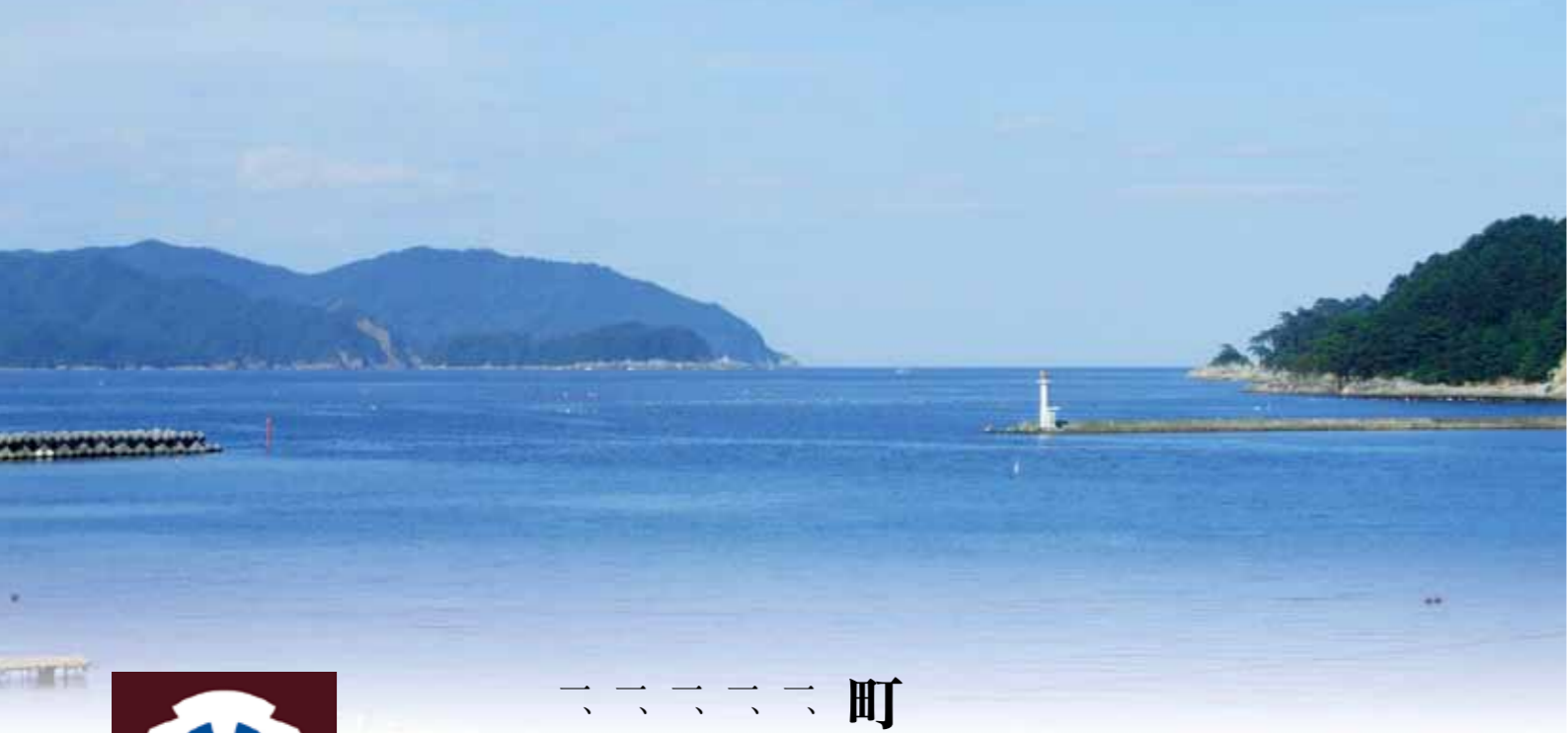
- 【凡例】
- 町・村役場
  - X 交番
  - ◎ 高等学校
  - \* 小・中学校
  - ▽ 消防署
  - 社 寺
  - ① 郵便局
  - 卍 神社
  - Ⓜ 病院

## 大槌までのアクセス

# ACCESS

飛行機ご利用の場合	鉄道ご利用の場合	自動車ご利用の場合	高速バスご利用の場合
大阪 → 1時間20分 → 花巻空港	東北新幹線 東京 → 3時間15分 → 新花巻	浦和IC → 5時間 → 東和IC	上り 大槌駅前 21:20発 → 釜石駅前 21:40発
札幌 → 55分 → 花巻空港	JR釜石線 新花巻 → 1時間30分 → 釜石	東和IC → 1時間30分 → 釜石	池袋駅西口 7:00発 → 新花巻駅前 23:36発
名古屋 → 1時間10分 → 花巻空港	JR山田線 釜石 → 18分 → 大槌	釜石 → 18分 → 大槌	下り 池袋駅西口 22:25発 → 新花巻駅前 5:42発
福岡 → 2時間30分 → 花巻空港			大槌駅前 7:52発 → 釜石駅前 7:35発

※花巻空港から新花巻駅までタクシーで約10分



**町章**

大槌町の「大」を「鐘」の中に図案化し、町の円満融和と飛躍を表したもので、昭和35年8月に制定されました。

- 町民憲章** 〔昭和48年10月制定〕
- 一、自然を愛し自然を大切にしましょう
  - 一、産業を興し豊かなまちをつくりましょう
  - 一、健康できまりある生活をしましょう
  - 一、香り高い郷土の文化を育てましょう
  - 一、安全で住みよいまちをつくりましょう



イメージキャラクター  
**おおちゃん**

大槌町のイニシャル「O」と大槌町の「槌」をモチーフに擬人化し、恵まれた自然環境と、素敵な心のエネルギーを基に打ち出の大槌から文化・教育・産業などすべての面で、限らない飛躍の力が大槌町に振り出されることをイメージしたもので、大槌町CI計画により平成6年1月に制定されました。



町の花

**新山つつじ**

〔昭和48年10月制定〕



町の鳥

**かもめ**

〔昭和48年10月制定〕



町の魚

**さけ**

〔平成9年8月制定〕

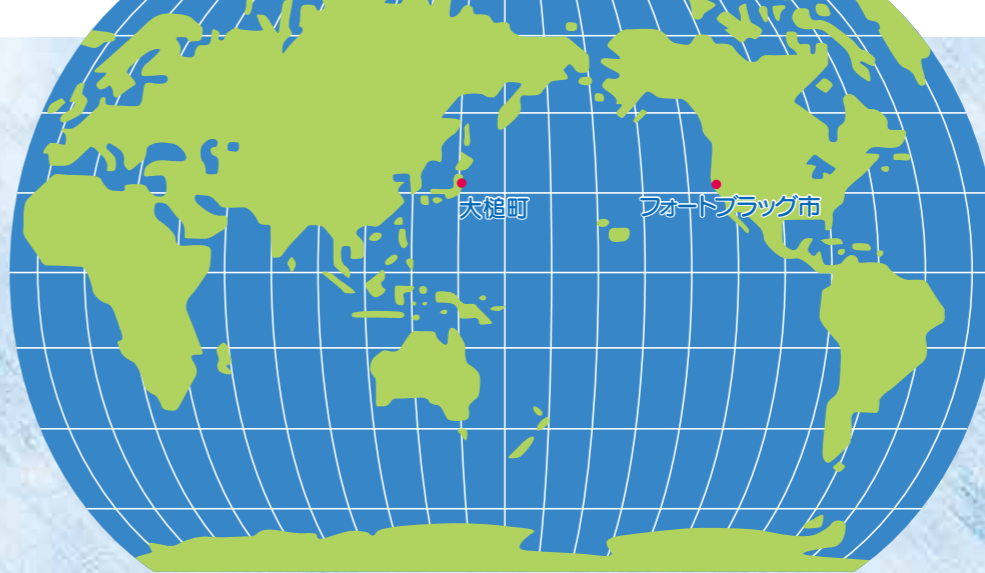


町の木

**けやき**

〔昭和48年10月制定〕

- 大槌町民歌** 〔昭和48年10月制定〕
- 1 太平洋に のぼる陽よ  
入り船出船 海の幸  
山のこだまも さわやかに  
生きるよるこび はつらつと  
大槌大槌 このまちを  
力あわせて 築こうよ
  - 2 片寄せ波の 浜風に  
根を張る松の たくましさ  
進取の気魄 あふれわく  
みのるしあわせ もろともに  
大槌大槌 このまちを  
日々にいそしみ 拓こうよ
  - 3 大槌小鐘 水清く  
流れにおどる 鮭の群れ  
心ゆたかな 人の和に  
夢をあつめて うるわしく  
大槌大槌 このまちの  
ゆくてたのしく 進もうよ



**姉妹都市**  
Sister city



フォートブラッグ市街地駅付近



姉妹都市締結協定書



**フォートブラッグ市**

平成十七年十月十五日、大槌町とアメリカ合衆国カリフォルニア州フォートブラッグ市は、相互の信頼と尊敬を礎とし、これまでの友好関係をさらに推進するため姉妹都市の締結を行いました。

フォートブラッグ市は、人口約七千人、観光とサケを中心とした水産業を基幹産業とする街です。カリフォルニア州サンフランシスコ市から北に約二百四十キロ、大槌町と緯度がほぼ同じ三十九度二十分の場所に位置しています。

「世界最大のサケバーベキュー」を催すこの街の存在を知ったのは、平成九年に大槌で開催された第十七回全国豊かな海づくり大会の前年のプレイベントの時でした。海づくり大会に同市の市長を招聘し、その後平成十四年から両市町の中高校生がホームステイなどで交流を温め、平成十七年、フォートブラッグ市長夫妻が大槌町を訪れ姉妹都市締結の調印式を行いました。

この締結により、大槌町とフォートブラッグ市の絆がさらに強固なものとなり、今後ますます進んでいく国際化の時代に向けて町の貴重な第一歩となりました。

また、中・高生によるホームステイでは、お互いの生活文化や言葉に触れることで、子どもたちの幅広い視野を培い、国際化を視野に入れた今後の学校教育の現場においてもこれらの交流は町の大きな財産となり、将来への可能性となることが期待されます。